

2026 年 6 月 28 日

学校法人三幸学園
札幌スポーツ&メディカル専門学校
校長 後藤 寿樹 殿

学校関係者評価委員会
委員長 八田 則之

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 八田 則之（スポーツクラブ&サウナスパ ルネサンス札幌平岸 24 支配人）
- ② 井上 翔 （学校法人三幸学園飛鳥未来きずな高等学校札幌キャンパス キャンパス長）
- ③ 竹内 滉也（2017 年度卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 6 月 26 日（会場 札幌スポーツ&メディカル専門学校 501 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園札幌スポーツ＆メディカル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 鎌田 克也

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 八田 則之

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【施策 1】

各学科の目標資格の合格率向上に向けて、資格取得の動機づけ、全国統一模試の活用、補講や教科担当との連携を深める。

【振り返り1】

●健康運動実践指導者

学校全体の合格率→51.7%（2024 年度 58.5% 2023 年度→70.1%）

●JATI 認定トレーニング指導者

学校全体の合格率→57.7%（2024 年度 61.3% 2023 年度→42.9%）

●アスレティックトレーナー

学校全体の合格率→79%予定(2024 年度→81.0% 2023 年度→48.0%)

●はり師

学校全体の合格率→60%（2024 年度→84.8% 2023 年度→80.8%）

●きゅう師

学校全体の合格率→62.2%（2024 年度→81.8% 2023 年度→80.8%）

●柔道整復師

学校全体の合格率→78.4%（2024 年度→52.9% 2023 年度→51.6%）

② 学校関係者評価委員会コメント

・2023 年度苦戦していたが、それ以降取り組みが結果につながっている資格も出ていると感じている。企業によっては社内資格も実施しており、介護事業を例にあげると介護事業業界では、健康運動指導士が不足している現状がある。地域スポーツを含めて有資格者の活躍を伝えていることが一番の動機付けになるのではないか。（八田委員：スポーツ＆アクティビティ科）

・現状、無資格で活動しているトレーナーもあり、無資格者のトレーナーがお客様をケガさせてしまうケースが増えているため、より資格が厳格化されていることを願っている。ボディコンテストで入賞して、トレーナーと名乗っているケースも見受けられており、有資格者の卒業生の生の声が重要と考えている。(竹内委員:学校全体)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・学校理念や育成人材像は、入学時のスタートアッププログラムや学校生活ガイダンス、新入生保護者説明会で伝えているが、継続的に伝えることができていない。

② 今後の改善方策

・入学時だけではなく、キャリア教育、ホームルーム等の授業を通じて継続的に伝えていく。

③ 特記事項

・2025年度より保護者連絡アプリ「スクリレ」を導入。
・新入生保護者説明会を対面にて実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・保護者連絡アプリ「スクリレ」の導入など、デジタルツールを活用した周知の取り組みは評価できる。通信制高校では、理念の浸透にはツールだけでなく、個々の状況に合わせた丁寧なコミュニケーションの質を維持することが重要と感じている。今後は、学生や保護者が理念を具体的な行動指針として捉えられるよう、さらなる工夫を期待する。(井上委員:学校全体)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・教職員の人数も増え、多様化するコンプライアンスやハラスメントについて、認識を統一していくために時間を要している。

② 今後の改善方策

- ・年に2度の全体会議の中で、ハラスメント・コンプライアンスの研修を実施、認識統一を図っている。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・コンプライアンスやハラスメント研修について、組織としての義務(マスト)という側面だけでなく、学生や教職員自身の「身を守るため」という視点を持たせる二面性のある教育方針を支持する。

（八田委員:学校全体）

- ・通信制高校では、異性(男性)の大人が苦手な学生も増えており、面談などの際に密室にならないように注意している。SNSでは学生間のハラスメントも起きているため、専門学校では SNSトラブルなど現代的な課題に対し教職員間での認識統一を図るため、教職員会議の継続的な実施により実効性のある管理体制を構築されたい。（井上委員:学校全体）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・スポーツトレーナー科、スポーツ＆アクティビティ科では 2025 年度よりカリキュラムを変更し、NESTA 様、株式会社ルネサンス様、ラディカルフィットネス様と連携して、職業観の醸成を目的とした初期教育を導入しているが、学生の職業観の醸成までは、まだ至れていない。
- ・資格をしっかりと取得させる教育体制と即戦力を備えた人物育成のさらなる両立が必要。

② 今後の改善方策

- ・アスレティックトレーナー科のカリキュラムを 2026 年度から変更予定。
- ・業界のニーズに合わせた授業シラバスの見直しができるよう、教科チーフの情報収集力の強化とそのため
の仕組みの構築、教科担当講師の声を教育に反映させることができる環境を作っていく。
- ・最新の現場動向を知るためにも外部企業と連携した授業を増やしていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・トレーニングをする授業より、トレーニング指導をする授業が増えたことがとても魅力に感じている。インターンシップ実習では実際にクライアント様に接する機会があり、経験を積む貴重なタイミングとなっている。

(竹内委員:スポーツ&アクティビティ科)

・クライアントと指導者役で実技授業を学ぶことで即戦力となる。現場からは、技術だけでなく「社会性」や「挨拶・明るさ」といった人間力の重要性が指摘されているため、言語化能力の育成も含め社会で可愛がられる人材の育成を継続してほしい。(八田委員:スポーツ&アクティビティ科)

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- ・主要資格の取得率は目標を下回る状況であった。
- ・学生の退学するケースが複雑化(人間関係の悪化・学習面の躓きなど)しており、適切な事前把握・事前対応ができていなかった。

② 今後の改善方策

- ・学校を休まない風土を再構築していく。また、教科担当教員から業界で働く未来をイメージした動機付けを実施していく。
- ・ホームルーム等を活用し、各クラスの課題を事前に察知し、それに適した指導プログラムを取入れるとともに、学校行事へのモチベーションを高め、協働力を醸成していく。
- ・スクールカウンセリングの活用などメンタル面のケアも同時に実施していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・主要資格の合格率が目標に届かなかった点については、早期(1年次)からの動機付けが不可欠である。また、退学率の抑制に向けて、卒業後のキャリア(夢)を具体化させる教育が重要となる。

(井上委員:学校全体)

- ・多くの学生が、スポーツに関わる業界で働きたいというぼんやりとしたイメージを持っていることが予想されるので、業界で「キラキラと活躍する卒業生」の姿を可視化し、学生が自身の未来を重ね合わせられるような機会を増やすことで、学習意欲の維持に繋げていただきたい。(八田委員:学校全体)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・カウンセリングルームを開設しているが、利用数が少ない。
- ・保護者との連携について、新入生保護者説明会を実施しているが、継続しての連携は不足している。

② 今後の改善方策

- ・カウンセリングについては、些細な相談でも利用できるように、担任・カウンセラーと連携していく。
- ・2026年度はスクリレ（保護者連絡アプリ）の頻度を上げて情報発信していく。
- ・オンラインでの保護者会を実施し、学校の教育方針に理解いただく機会を増やしていく。

③ 特記事項

- ・カウンセリングについて、2025年度よりオンラインで24時間カウンセリングを活用できる仕組みを取り入れている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・「スクリレ」やオンラインカウンセリングの導入による支援の多角化は評価できる。就職支援においては、スポーツ業界特有の人的ネットワークの重要性を鑑み、教職員が持つ求人情報だけでなく、卒業生ネットワークを活用した内情把握や転職支援など、能動的なサポート体制をさらに強化することを提案する。

（八田委員：学校全体）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・18歳人口が減少する厳しい環境下において、入学者数が増加傾向にあることは、学校の教育成果が一定の評価を得ている証である。今後は、通信制高校からの入学者へのサポート体制など、多様な学生を受け入れるための教職員の認識統一をさらに進めることが望ましい。（八田委員:学校全体）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

- ・コンプライアンス体制の整備や個人情報保護について、引き続き高い意識を持って啓蒙活動を継続されたい。
特に、教職員と学生、あるいは学生同士の適切な距離感の維持について、研修等を通じて周知徹底することを求める。(井上委員:学校全体)

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・地域や一般の方に向けた公開講座の開催には至っていない。

② 今後の改善方策

・学校という教育環境とスポーツ人材育成という実践環境を活かして地域や関係団体と連携した活動を推進していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・公開講座の実施は発展途上であるが、学生が学びの成果を外部（保護者や企業）に発表する「アウトプットの場」を設けている点は、学生の成長に大きく寄与している。今後は、立地条件を考慮しつつ、地域住民へのプチ健康講座など、学校の資源を活かした地域貢献の形を模索していただきたい。

（八田委員:スポーツ&アクティビティ科）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・教育内容・育成目標は明確化されており、教職員が一丸となって取り組む仕組みとして体系化しており、また、授業アンケートも高い評価結果となっているため、一定の教育水準を達成している所は高く評価できる。

（八田委員・竹内委員・井上委員）

一方で、多様化している学生に則した環境設定や学校運営の構築がまだ十分とはいえず、その結果退学者数がほぼ前年と同数になっている事や、資格合格率が掲げた目標に達成できていない事は、今後の改善に期待したい。特に、入学直後の初期教育の浸透から資格や将来イメージの動機づけ、学びをアウトプットする機会が十分ではない事が、資格の意義理解や現場とのミスマッチを引き起こしていると考えられるため、卒業生や上級生より具体的なイメージを伝える機会を増やし、より業界で活躍する人材を見据えた教育の再構築が望まれる。

（井上委員）